

都内での産直市



橋りょう架替工事(福島県)



水道現地視察(岩手県)



被災地に向かう東京都職員
(宮城県)



東京都の支援

発災直後から、被災地には全国各地より救出救助や復旧を支援するための様々な機関が駆け付けました。東京都においても、2011年3月末には被災された県に現地事務所を開設するなど、刻々と状況が変化する現地の情報を収集し、被災地が求める物資の搬送やさらなる応援職員の派遣を実施しました。今日まで、都は延べ3万人を超える職員を派遣しており、様々な分野で被災地の復興事業を支援しています。

震災復興事業で育まれた絆（岩手県釜石市）



鵜住居川水門

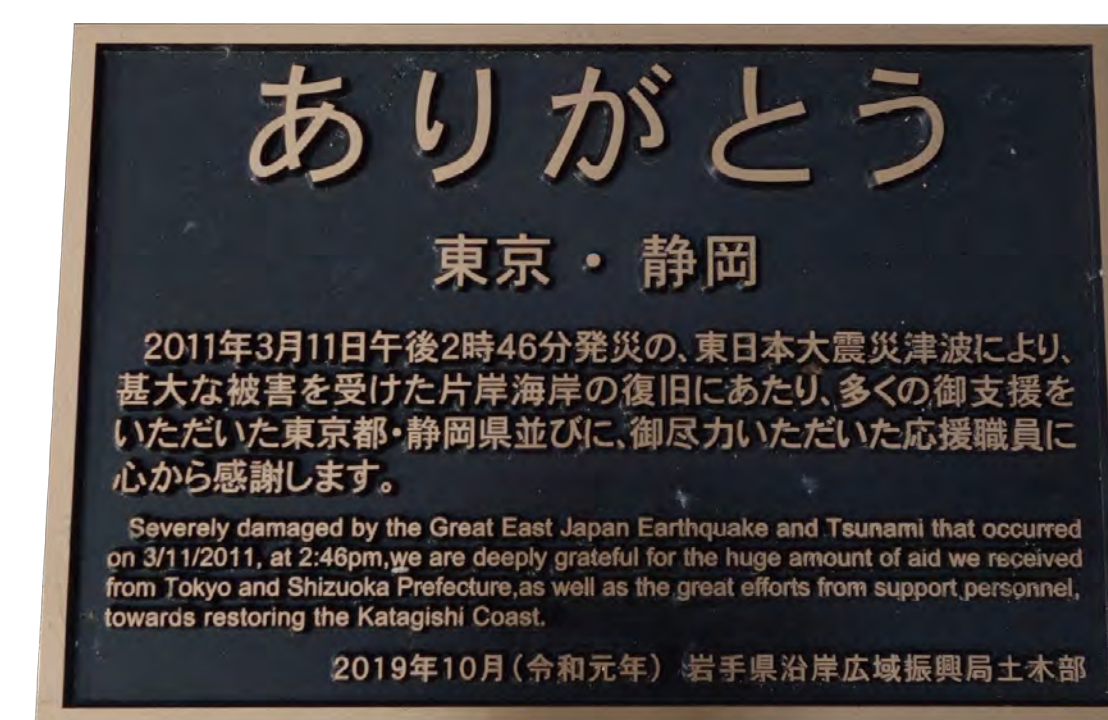
岩手県の鵜住居川水門は、釜石鵜住居復興スタジアムが建つ鵜住居川河口の水門です。水門の全長は180m。大きさは東京駅丸の内駅舎に匹敵するほどです。この水門や防潮堤工事に、岩手県職員、他県からの派遣職員とともに東京都派遣職員が取り組んできました。

岩手県職員や他県からの派遣職員とともに苦労を分かち合い、現地には確かな絆が育まれました。



被災直後の様子

2019年10月に、防潮堤工事が完成し、岩手県沿岸広域振興局は、工事に従事した延べ約160名の職員に感謝を表すため「感謝の会」を開催し、「ありがとう」と書かれた記念プレートが河岸防潮堤に埋め込まれました。



式典の様子

都派遣職員の活躍（宮城県気仙沼市）



復興が進む鹿折地区

太平洋沿岸に位置し、水産業で賑わう宮城県気仙沼市。
三陸沖で発生した大津波は、その気仙沼市を巨大な濁流となって襲いました。
震災後、全国の自治体や東京都から多くの職員が派遣され、震災復興事業に従事。
2019年9月、着工から6年余りの歳月を経て、土地区画整理事業が完了しました。

宮城県で培ったチーム丸となって着実に解決していく経験を、
東京においても活かして行きたい。

《従事した都職員のコメント》

『一日も早い復旧・復興を望んでいる皆さんのために、強い使命感とスピード感をもって職務に臨む。』

『技術職として常に知見を高めていくことの重要性を改めて認識した。』



完成間近の片浜地区海岸

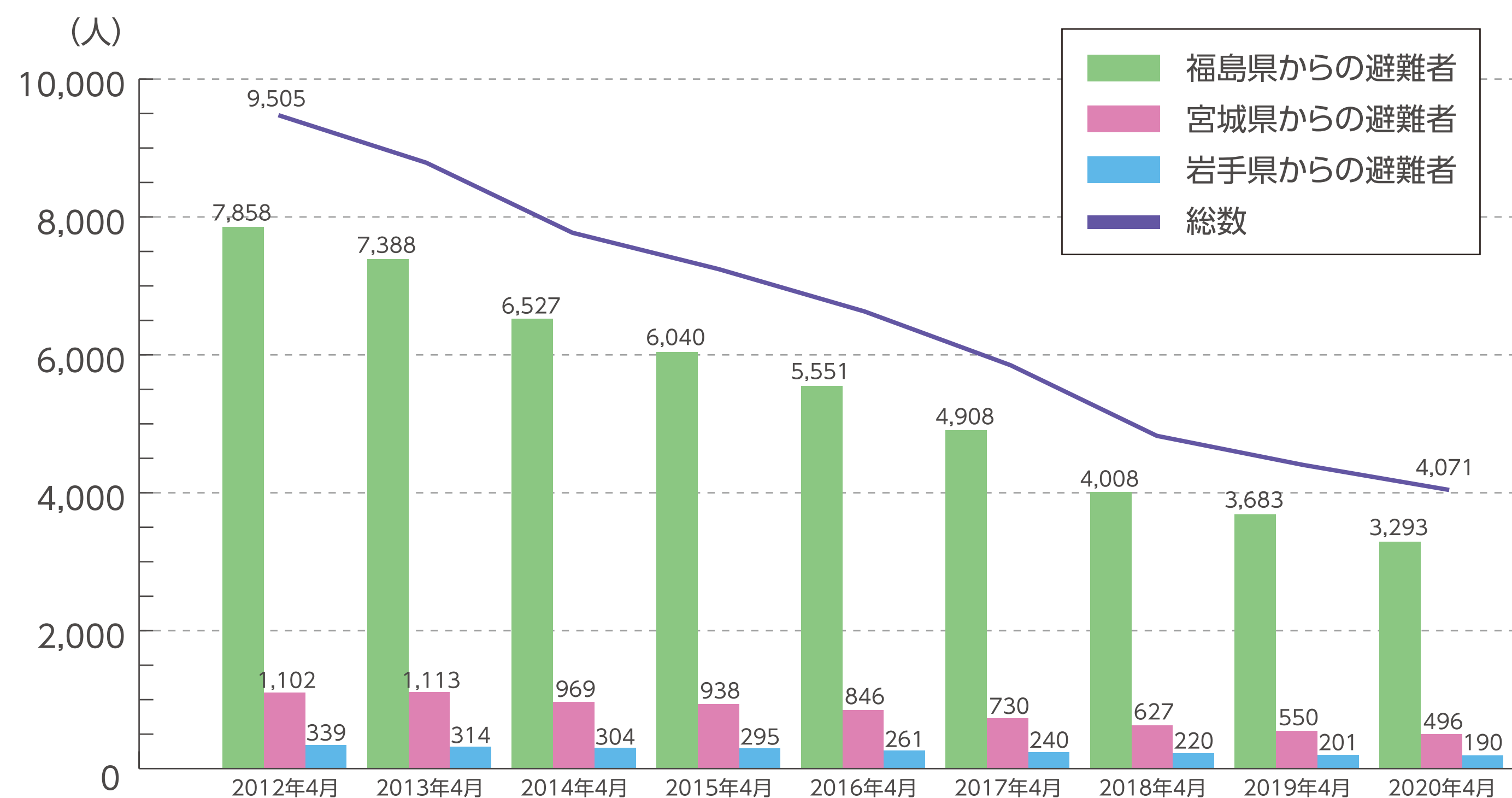


安波山から望む気仙沼市

都内での支援活動

東京都は、東日本大震災被災地の「今」を伝え、震災の風化防止と支援の継続を呼びかけるイベントを開催しています。また、都内では今も避難生活を送られている方がいます。東京都は区市町村や避難元自治体と連携し、都内で避難生活を送られている方に対し、現在も被災地の復興状況や各種支援施策の情報発信、電話相談等を行っています。

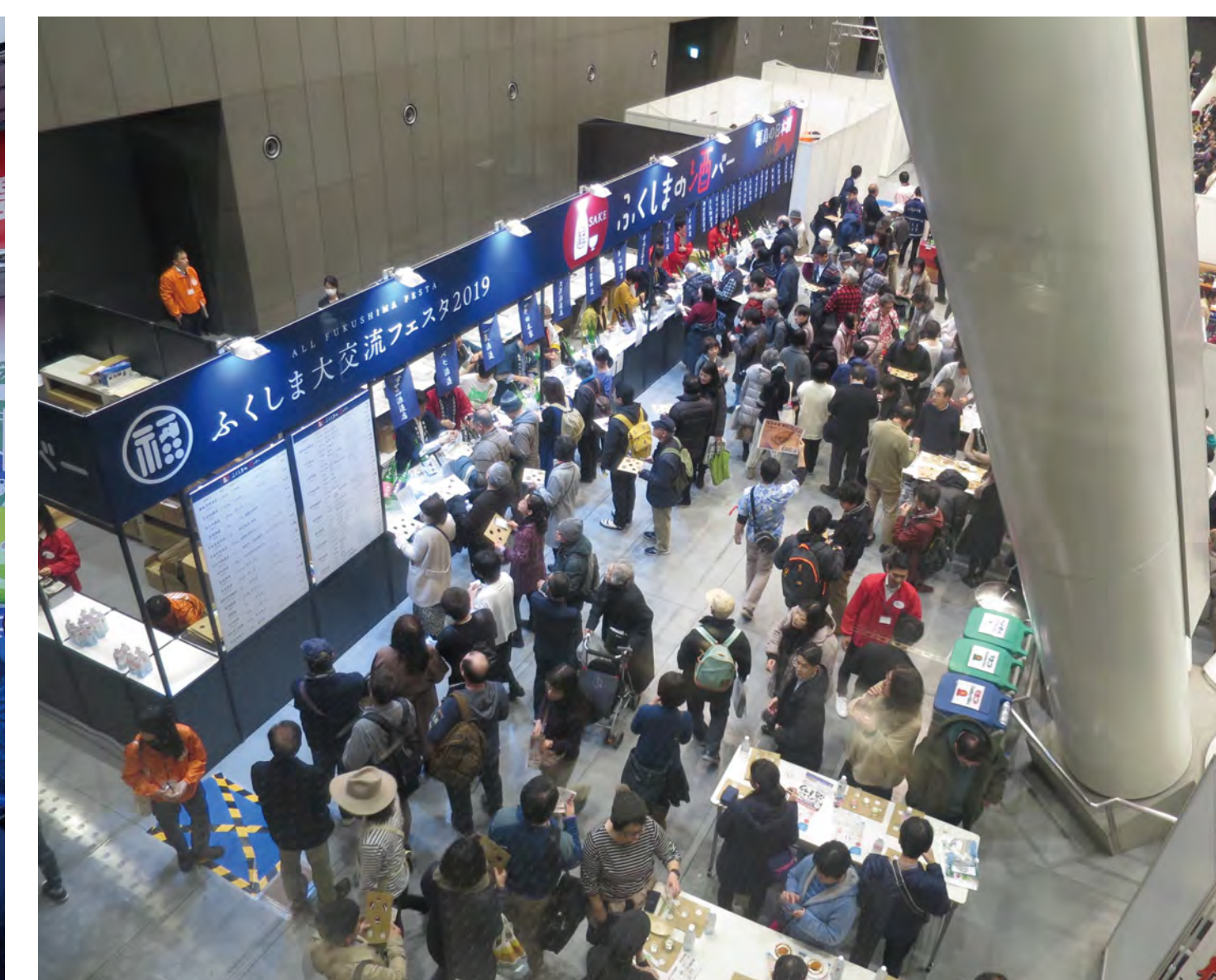
都内避難者数の推移



都内避難者電話相談窓口 【総合相談窓口】

- 都内避難者電話相談窓口では、電話相談や各種イベントにおける出張相談を通じて、皆様からの様々な相談に対応しています。
- 相談を受け付け、皆様のお悩み・お困りごとの解決に向けてお手伝いをしております。

復興応援・風化防止イベント



被災県の物産販売会



避難者交流会



賑わいの再生



津波の記憶と未来

南三陸町と手を取り合ってきたモアイ像の歴史は1960年まで遡ります。この年、チリはマグニチュード9.0の大地震に見舞われ、1500人以上の人が犠牲となりました。この地震は太平洋を隔てた日本にも津波被害をもたらした。南三陸町でも41人が亡くなりました。それから30年後の1990年、津波被害を知らせる。南三陸町民の防災意識を高めるため、南三陸町では、記念行事を計画。町民「家財と防災のシンボル」としてモアイ像が南三陸町の復興シンボルに設置されました。それから、この像は20年間、南三陸町から防災のシンボルとして置かれてきました。

モアイ〜未来に生きる

南三陸町の生徒の思いが、チリの人々にも伝わる。日経経済委員会チリ委員会との関係は、2019年2月、チリ委員会を組織し、日本と南三陸町の復興を支援するために、南三陸町のモアイ像が贈呈されたこと。南三陸町のモアイ像をイメージしてキャンペーンを行っていたことを知り、イースター島で制作する新しいモアイ像を贈るアイデアを2011年11月に南三陸町を訪問しました。

街 2018年

生活を支える商店の再開は、被災された方々の強い希望でした。早い時期から、広場等で復興市が開催されるなど、商業活動が行われました。復興初期は、イベント形式やテナなどを活用した仮設商店街が、その後の復興まちづくりにおいては本設商店街が新たな賑わい創出の役割を果たしています。

震災津波の被害を受けた漁港施設(館鼻岸壁 青森県八戸市)

八戸市の沿岸部では津波により防波堤が倒壊したり破損するとともに、漁港では岸壁・用地舗装の破損、航路・泊地の埋塞等の被害に見舞われました。がれきだけでなく、多くの大型漁船が岸壁に打ち上げられました。その後、復旧工事が進められ、2012年に復旧工事は完了しました。



漁港施設での朝市(館鼻岸壁朝市 青森県八戸市)

震災津波で打ち上げられた漁船の撤去などを行った後、2011年7月から朝市が再開されました。現在も、岸壁で開催される朝市は人気の観光スポットであり、市には数万人の人が訪れます。300以上の店が出店する朝市には、鮮魚や干物などの海産物、野菜や果物、手作りの総菜から雑貨まで、あらゆるものが並びます。



復興初期の商店街(女川コンテナ村商店街)



2011年7月に「コンテナ村商店街」がオープンしました。この商店街は、震災後町内に初めて開設されたもので、町民はようやく町内での買物ができるようになりました。その後も新たな仮設商店街が開設されましたが、これらの商店街は定期借地として広い敷地を借り上げて整備されていたため、仮設商店街の閉鎖に合わせて本設商店街に移転する出店者もいました。

住民も観光客も楽しめる商業施設 (シーパルピア女川 宮城県女川町)



2015年12月に駅の開業に合わせてオープンしたシーパルピア女川は、住民の日常をサポートする商業機能と観光需要の双方に対応するにぎわい施設です。周辺の復興まちづくりは、震災前のまちの道筋などを残すとともに、海から駅に向かう広いレンガ道は、いざというときには安全な高台に逃げるための避難路にするなど、大切な記憶と震災の教訓を反映しています。

賑わいの場としての仮設商店街(旧南三陸さんさん商店街 宮城県南三陸町)

2012年2月に仮設商店街がオープンしました。「復興市」を開催した実績をきっかけに同じ場所で商店街を開設したもので、周遊を意識した店舗配置や盛大なイベントの実施など、地元住民から観光客まで皆が楽しめる場となりました。この仮設商店街の賑わいは本設商店街に引き継がれました。



仮設商店街から本設商店街へ(南三陸さんさん商店街 宮城県南三陸町)

2017年3月に本設商店街が町の中心地の震災後8.3mほどかさ上げされた高台の造成地に建設されました。この商店街は有名な建築家監修のもとで設計されていたり、町が復興支援に送られたモアイ像を設置するなど、官民が連携して話題づくりを行い、さらなる賑わいの創出に努めています。



復興を発信する商店街(いわき夜明け市場 福島県いわき市)

2011年11月にJRいわき駅前
前に東日本大震災で被災した
飲食店や復興を後押しした
という県外からの飲食店に
より、商店街が開設されまし
た。被災者や起業家の生活再
建や自立の促進、新たなまち
づくりの拠点となることなど
を目的に、いわきから福島
の復興を発信しています。



復興まちづくりを支える(キャッセン大船渡 岩手県大船渡市)



大船渡駅周辺地区では、企業・行政・各種団体と連携し、復興を越えてさらに賑わいのあるまちづくりを目指す「株式会社キャッセン大船渡」を、2015年12月に設立しました。商業施設の運営だけでなく、町の中心市街地の復興に向けて、商店主や地元の方々とともに様々な取り組みを行っています。

町が建設し、民間が運営(さくらモールとみおか 福島県富岡町)

富岡町が整備を進めていた複合商業施設は2016年11月に一部先行で開業しました。町が施設を設置し、民間が運営を行う指定管理者制度を導入し、運営されています。大型商業施設の設置は、生活の利便性の向上や地域の活性化につながります。モールの付近には、鉄道の駅、官公庁や病院、災害公営住宅も整備され、復興まちづくりが進んでいます。



震災伝承施設も一体的に整備(うのすまい・トモス 岩手県釜石市)

津波復興拠点整備事業で整備された2.8ヘクタールの地区には、産業の再生や震災メモリアルの継承としての施設整備が計画されました。2019年3月に開業した「うのすまい・トモス」には、商業施設のほかに震災伝承施設「いのちをつなぐ未来館」をはじめとする公共施設が一体的に配置され、地域の賑わいの拠点となっています。



うのすまい・トモス内「釜石祈りのパーク」

津波の事実と教訓を後世に残すために建設された石碑
(宮城県女川町 2015年8月)

未来

につなぐもの

千年後の命を守るために

ここは津波が到達した地点です

もし大きな地震が起きたら

この石碑より上へ逃げてください

逃げない人がいても ここまで

無理矢理にでも連れ出してください

家に戻ろうとしている人がいれば

絶対に引き止めてください

女川中学校卒業生

復興まちづくりの進展に伴い、人々の日常やコミュニティが取り戻されています。地元では、震災により途絶えていた行事が再開されるとともに、震災と復興を通して得られた貴重な教訓を後世に伝えていくための取組や、伝承施設の整備が進められています。

津波を乗り越え、伝統を継承(釜石虎舞 岩手県釜石市)

江戸時代中期より伝わる釜石市の「鵜住居虎舞」。震災津波により、衣裳や屋台、道具なども一切失いました。震災から数日後、瓦礫の中から見つけた太鼓を補修し、現在も使用しています。全国からの支援を受け、苦難を乗り越えて、伝統を披露し、後世へと継承しています。



戻ってきた祭(遊海しんち 福島県新地町)



漁船パレード



祭のにぎわい



ビーチバレーボール大会

2019年7月、震災から9年ぶりに釣師浜海水浴場が再開され、この場所を会場とする祭も盛大に行われました。復興を通して培われた地域の絆や人との繋がり、豊かで魅力的な海の復活を発信する祭では、漁船パレードやビーチバレーボール大会など、海に由来するイベントが数多く開催されます。

震災復興を伝える祭(女川復興祭 宮城県女川町)



2012年3月、女川の復興に取り組む姿を発信するために新たな祭が始められました。初回は1万人を超える方が参加し、その後も町の復興を盛り立ててきました。祭では、「逃げる」の合図で走る「津波伝承 女川復興男」というマラソンも実施され、津波避難の基本をイベントの形で後世に伝えていきます。現在は「おながわ春のファンまつり」となり、賑わいを継承します。

先人のメッセージ(石碑 青森県階上町)

「ほら逃げる、津波の時は線路まで」

過去の津波経験から生まれた言葉。

これが平成二十三年三月十一日の大津波から尊い人命を守った。

死者、行方不明者なし。

午後二時四十六分頃、マグニチュード九・〇の巨大地震発生。震源三陸沖、震度五強の揺れが三分間続き三日間停電となる。一時間後から津波襲来、漁港内の漁船転覆・破損百二十四隻。漁港の沖合、大岩の根まで海底を現し引く。四時三十分頃、十メートルを超える最後の津波が防潮堤を超え、県道沿いの建物を襲った。

民家、店舗、全半壊二十八戸、大蛇集会所・浜小屋流失、集落排水処理施設他公共施設水没、破損。

沖に脱出の漁船乗組員、三日間洋上で寒さと空腹と疲労に耐えた。

住民は、追越集会所に避難。車中で朝まで過ごす人もいた。被災者の避難所生活は、二十六日まで続いた。

翌十二日朝は、うそのような穏やかな海。

平成二十三年十一月吉日

階上町 建立

過去の津波経験が簡潔な言葉で語り継がれ、震災津波から人々を守りました。この言葉や、震災当時の停電や防潮堤を超える津波襲来の様子、避難住民の様子などが克明に刻まれた石碑は、2011年11月に建立されました。この碑には、尊い人命を救った教訓を後世に残したいという思いが込められています。

日頃の備え(岩手県釜石市)

震災前から、釜石市では三陸地方の言い伝えである「津波てんでんこ」の精神を防災教育の基本としていました。子どもたちは地域の避難所マップづくりや小中学校の合同避難訓練等、日ごろから様々な形で防災教育を受けていました。その結果、東日本大震災にあっても、普段通りの行動を当たり前実践でき、無事に避難できました。



防災学習(ハザードマップ作成)



避難



避難

学校と避難場所の位置関係



この出来事を後世に 東日本大震災・原子力災害伝承館①（福島県双葉町）



原子力災害伝承館 外観

東日本大震災・原子力災害伝承館②



プロローグシアター



展示室(災害の始まり)

これまで国内で経験したことのない甚大かつ複合的な災害の記録と記憶を、防災・減災の教訓として、みらいへつないでゆく施設です。

開館時間／9:00～17:00

休館日／毎週火曜日、12月29日～1月3日

※火曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、その日後でその日に最も近い休日でない日を休館日とします。

所在地／福島県双葉郡双葉町大字中野高田39



展示室(復興への挑戦)

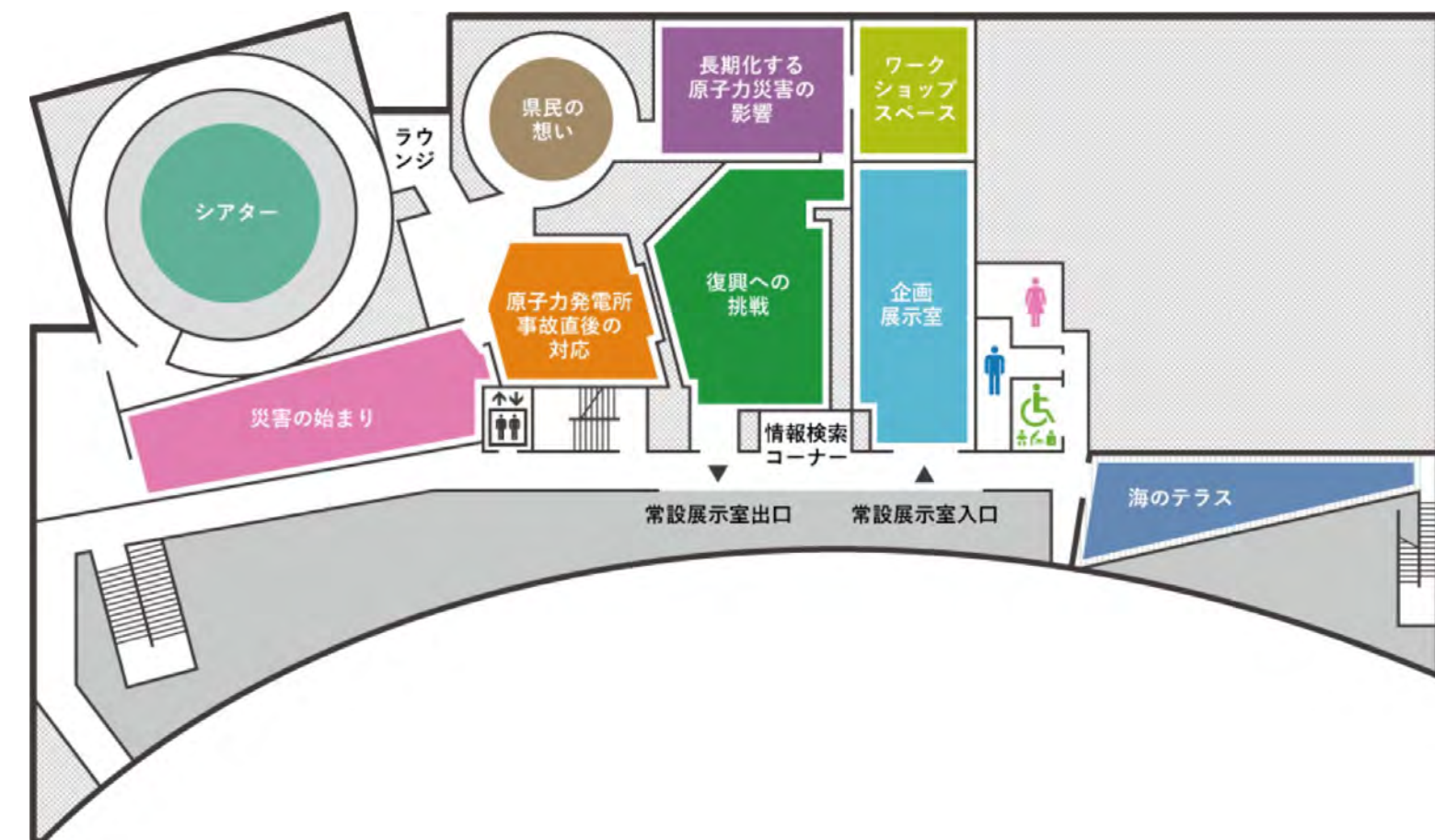


展示室(復興への挑戦)

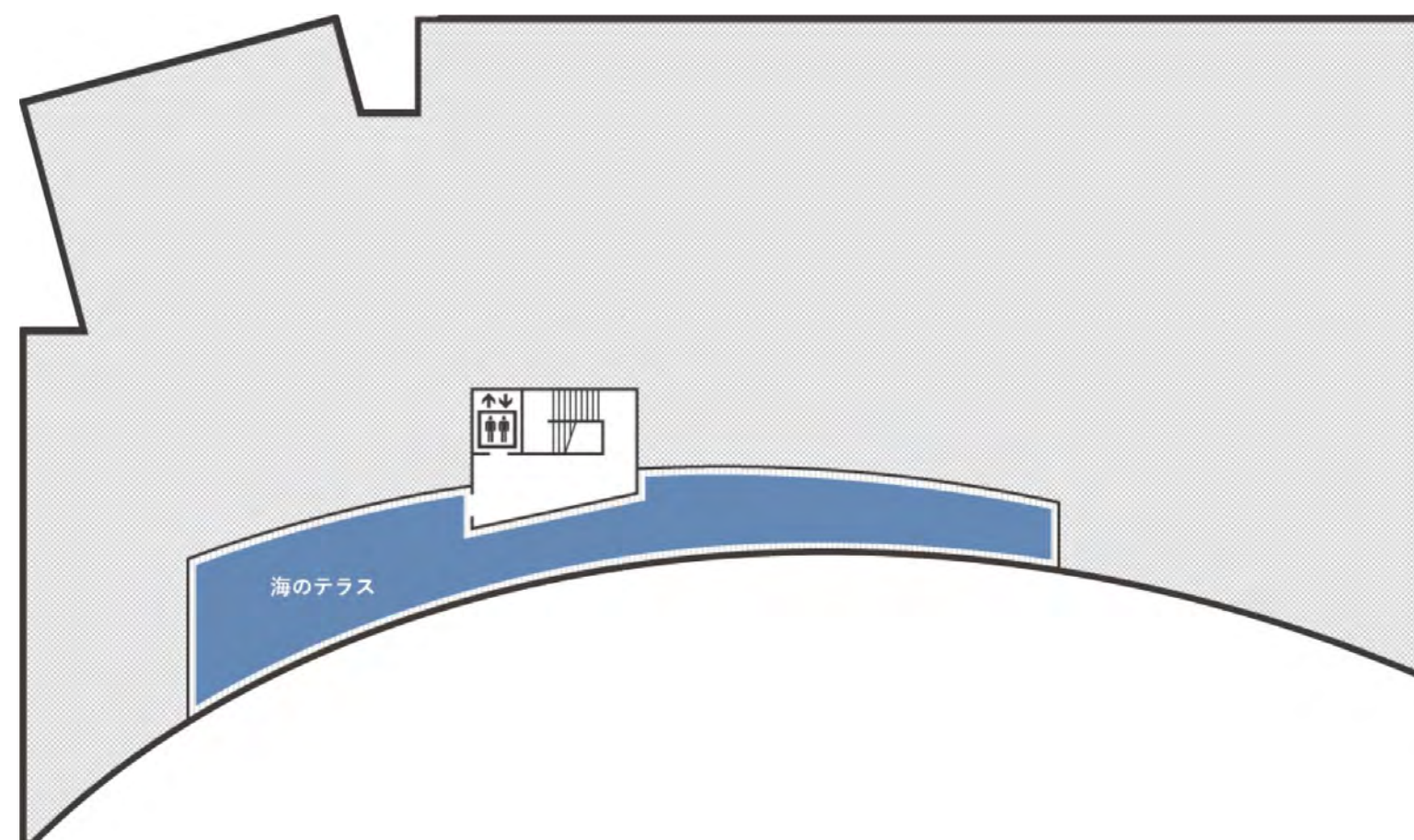
フロア図



1F



2F



3F

いのちをつなぐ未来館①(岩手県釜石市)



いのちをつなぐ未来館 外観

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する施設です。展示室では、釜石での防災学習の取り組み等を紹介しています。

開館時間／9:00～18:00

休館日／毎週水曜日・年末年始

入場料／無料

所在地／岩手県釜石市鵜住居町4丁目901

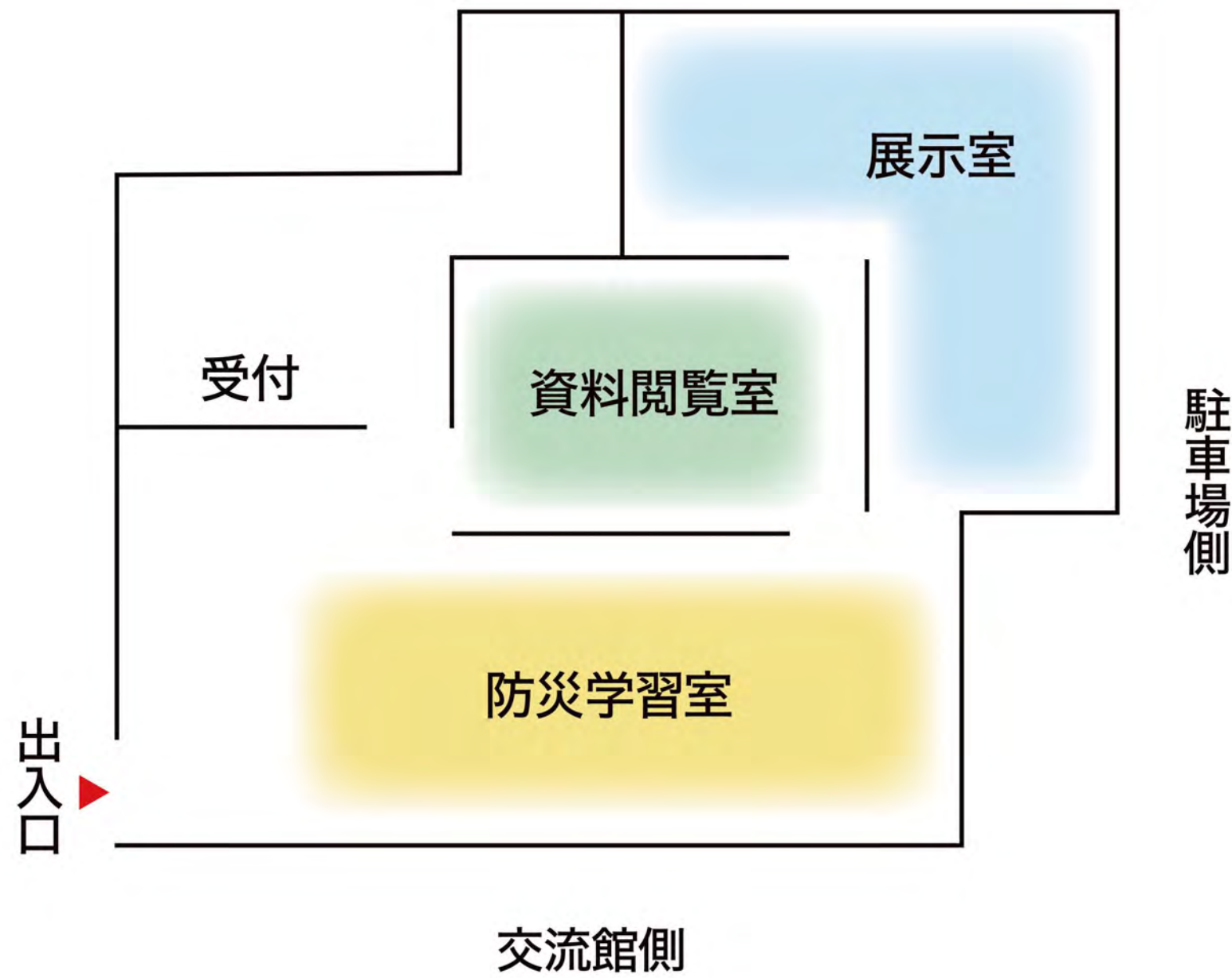


展示室

いのちをつなぐ未来館②



展示室



展示室

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館①(宮城県気仙沼市)



東日本大震災遺構・伝承館 外観

この施設は、将来にわたり震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として活用し、気仙沼市が目指す「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目的としています。

開館時間 / 4月～9月 9:30～17:00

10月～3月 9:30～16:00

休館日 / 毎週月曜日・祝日の翌日

(土日、GW期間を除く。)・年末年始

特別開館日 / ※曜日・祝日に限らず開館する日

毎月11日

9月1日(防災の日)

11月5日(世界津波の日)

所在地 / 宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1



展示室

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館②(宮城県気仙沼市)



震災遺構(気仙沼向洋高校旧校舎)